

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 12月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた		
所在地	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	平成25年11月19日	評価結果市町受理日	平成25年12月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 一階
訪問調査日	平成 25年 12月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型の施設として私達が出来ること…、私たちは地域の担い手としての自覚を持って地域の方々との交流を大切に考えています。

中学生・高校生のインターンシップや介護実習の受入れ、地元のボランティアの方々や保育所の園児さん達との交流会などを積極的に行なっています。また、当事業所の職員が認知症キャラバンメイトとして地域へ出向き、認知症について共に学び合うことで、より関心を持っていただく良い機会となっています。当事業所の中はスタッフ同士のコミュニケーションもよく取れており、フロア内はいつも笑顔であふれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

日々、何かが出来ても「これでよし」としない姿勢で更なる追求・向上心を持って過ごしている。管理者を筆頭に多方面の繋がり構築を長年繰り返し重ねて続ける事で、現在の体制が整い、土台が出来、同時に入居者の支援に繋がっている。

明るく親しみやすい職員と入居者の笑顔がいっぱいのホームで、職員は表面的な観察だけでなく何事にも意味があり、より深く入居者の行動を考える事で直接原因だけではない理由を見つけようとする姿勢をとりサービス向上に繋げている。

母体が医療機関であるため医療系の強みもあり、法人内の別事業所とも、とても強い協力

関係が確立されている。

会議等、全職員が交代で担当にすることで一つのことを皆で作上げたり、毎年、各職員がそれぞれ目標を掲げ、その目標に向かうことで更なるスキルアップに繋げている。

プロジェクトチームを法人内で作り、環境、エコ物品、接遇（おもてなし）についての情報共有や職員が関わる事で、あらゆる事柄に関連され更によりよいホームの支援に繋がっている。日々の小さな努力、深い追求、続ける事で繋がる大切さをホーム全体で試行錯誤しながらより良いものに向かう姿勢がとられている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	「感謝の気持ちを忘れずにやさしい手とたしかかな手でもともに歩みます」を理念に掲げ、職員全員が意味と意義をきちんと理解し、入居者様の目線に立ったサービス提供に努めている。	開設時に全職員で作られた理念を唱和や掲示するのはもちろんのこと、理念の言葉一つひとつの意味を深く掘り下げることにより、更に全職員が意味を理解し、サービスに繋げられるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のボランティアや保育所との交流会、中学、高校生の職場体験や介護実習等を通して相互理解を深める機会となっている。日常的には買い物や散歩などを通じて顔なじみの関係ができています。	地域の学校からの受け入れ、行事やボランティアでの交流等、ホーム側からの地域へのかかわりを日々続け積み重ねる事により出来た、良好な関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室の開催や地元の学校からのインターンシップ、実習の受入れ、認知症サポーター養成講座に講師として職員が出向くなど、事業所の力を地域に還元できるよう積極的に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告以外に、毎回インシデント・アクシデント報告も必ず行い、委員から助言をいただきながら再発防止に努めるなど、多岐にわたり業務に反映されている。	会議では写真を使って分かりやすい工夫をしたり参加者からの意見等も出ています。実際に夏季の暑い時期の対策として「冷たいおしぼり」の提案があり、実践し直ぐに対応する姿勢がとられている。	会議で欠席された家族への報告が現在はない。運営推進会議がどういうものであるか、という意味でも、今後文書化したものを欠席された家族へ報告することが望ましい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となって行政と連絡を取り合っている。必要な情報は会議や主任を通して伝達され共有できている。運営推進会議でも地域包括の委員を窓口情報交換が出来る。	管理者が市のグループホーム連絡協議会や他の委員会等に属して活動されているため市担当者とも密に協力関係が出来ている。市からの依頼も多く大学への講習依頼があったり、ホーム側からの提案をしたり相互的な関係が構築されている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自らの動きで皮膚剥離を招きやすい方に対しては、家族と協議し説明を行い同意を得ているが、職員の意識も含め、常態化しないように目的や期限、評価を確実にやっている。	行政の外部研修に参加し研修内容を全職員で共有している。声掛けの言葉に関しての難しさは、その都度「なぜ入居者がそのような行動をとるのか」の理由や原因を考えることにより身体拘束にならない対応をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルはいつでも閲覧出来る様にデスクに設置している。また研修への参加や職員同士で日々のケアを確認しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度の認識はしているが、開設以来対象者がいないためか実用的な知識は乏しい。外部研修などを通して学習する機会を今後も持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族や本人の思いを尊重し、解りやすい言葉で時間をかけて説明し、疑問点など尋ねながら理解してもらっている。改定時は予め電話連絡し、後日来訪時に個別に説明同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが投書は殆どないのが現状で、家族の来訪時には必ず近況報告を行い、こちらから家族の意見や要望を聞き出すようなお声かけをしている。運営会議では実際に家族の立場での意見も頂けるのでありがたい。	担当者制を取っており、職員は常に担当入居者や家族に自分から関わる事を大切にし意見や要望を言い易い関係作りに努めている。実際に電話対応についての意見があった際には、直ぐに対策がとられ運営に反映させた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは日常的に意見交換ができ、急な用件でも柔軟に対応され、現場の意見を尊重して代表者と良く連携をとられている。代表者も職員に気軽に声をかけて様子などを気遣って下さる。	各ユニット会議、その後合同会議が毎月あり提案など検討されている。管理者は職員に負担がないように、との姿勢で接しフロアーにもよく顔を出す事で気軽に話しやすい機会作りを設けている。実際に異動の話があった際には職員本人の意向も確認し検討した事例もある。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の家族に支障をきたすことのないよう、現場の意見を取り入れ環境作りに反映されている。給与面でも昇給と賞与を毎年与えて頂き、仕事にもやりがいを感じられる。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修会に積極的に参加の機会を与えて頂き、その内容も全員が共有出来る様に報告書の閲覧や会議の中で報告し合い、職員のスキルアップにつなげている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡協議会の東部ブロックの施設間で、年間の研修計画とテーマを決め、2～3ヶ月毎に研修を開催している。グループワークを通して施設間の交流を図り、サービスの質向上に役立っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>関係機関からの情報や事前訪問、個別面談の中で、本人の想いを尊重し、関わりを多く持ちながら信頼関係を築いている。入居当初は特に訴えや要望に耳を傾け安心の確保に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでの経緯や家族の思いを把握した上で、家族が来訪時には主任以外の職員も必ず生活の様子を伝え、意見や要望を気軽に話して頂けるような関係作りができるよう努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>早く環境に慣れて頂き安心した気持ちで生活が送れるよう、常に本人や家族とのコミュニケーションを図りながら現状を把握している。状況に応じて併設事業所の協力も得ることができる。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出来ることを見極め、必要以上に手を出さず個人を尊重した関係を大事にしている。フロアでは日常的に互いに助け合う入居者同士の姿が見られる。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時には必ず本人の生活状況を伝え、逆に家族の意向も聞き取りながら、共に状況を認識しておく事で安心な生活に結びついている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	一時帰宅や日帰りドライブなどに家族が同伴されたり、入居前からの友人と外へ遊びに行かれるなど、日常的に楽しみながら過ごされている。	入居者の約7割が校区内からの登録であり、家族や知人のみならず近隣の方とのコミュニケーションが継続してとられている。遠方にいる家族とは手紙や電話での支援を行っている。後に知った情報もアセスメントにプラスし更に次に繋げる支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの時間を大切にしながらも、孤立しないようにレクリエーションや家事のお手伝いを通して交流の機会につなげている。必要に応じて職員が介入し関係が円滑にいくような配慮をしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も次の支援先が決まるまで、家族や本人の意向を確認しながら関係機関と調整しながらフォローをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々入居者とのかかわりの中で、本人の思いや希望など、知り得た情報を職員間で共有して解決の糸口を探っていく。言動一つにしても職員が敏感に感じ取り、本人本意に検討している。	日々の動きや変化を読み取る様各職員が気に掛け気づいた場合は、その情報を入居者の思いや意向の把握に繋げられるよう文書にも残し全職員が共有している。必ず原因や理由があり、ヒントを見逃さないという姿勢で取り組んでいる。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初回の面談から入居に至るまでの間、在宅での課題や介護者としての思い、これまでの生活の様子が変化し始めた頃の状況などを聞き取り、状態像を把握していく。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>主に個人の生活の様子を詳細に記録された業務日誌を通して朝夕の申し送り時に現状と課題、変化や今後の見通しなどを職員間で共有している。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>事前検討用紙に課題とケアのあり方についての各自の意見をまとめ、これを基にプランの原案を作る。先に家族や本人からも意見を聞き取っており、出来る部分を活かせるケアプラン作りを心がけている。</p>	<p>短期・長期の見直しがあり他に3ヶ月に1度は必ずモニタリングをし把握に努めている。現在は1ユニットでのICFの取組みであり今後、全職員で共有して更にケアプランに反映出来るような体制を整えたい意向である。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>業務日誌以外に個人記録、ケアプラン表には個々の生活の様子や状態の変化を記入し、職員間で情報を共有しながらケアのあり方を見直しと評価を行なっている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>当事業所の機能のみでとらずに、総合的にかつ柔軟に対応できる様、併設事業所との連携協力は常に得られる体制が整っている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>毎月の訪問理美容、巡回図書、週1回の訪問パン屋を楽しみにされている。学校からの職場体験、実習、ボランティアなどの受入れも積極的で、これを機に当事業所に就職を希望する学生が増えた。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門の医療が必要な場合は当院より紹介状を持って家族と職員も同伴で受診している。家族付き添いが困難な場合は、職員が同行し受診後に家族と当院へ報告をしている。	母体が目の前にある医療機関であり緊急時の24時間体制もとれマニュアルも完備されている。ちょっとした変化についても直ぐに確認できる体制が整っており2週間に1度の定期健診もある。以前のかかりつけ医や、専門医への受診も可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の村上医院とは申し送りノートで入居者の健康状態を毎日確認できる。当事業所にも看護師がおり、また併設事業所にも看護師が配置されており、常に協力体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と当院と連携をしながら、退院に向けて相互に情報を交わしながら受入れ体制を整える。職員は入院先にも面会を重ね、本人と家族との関係が途切れないうように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に予め、当事業所の看取りの指針をもとに説明し、理解を得られるようにしている。重度化された場合は、院長、師長、管理者、主任と家族で協議をし、意向を確認しながら方針を決めている。	母体が医療機関のため出来る限りの支援をしていきたいとの意向であり、実際にはホームと病院との申し送りノートを使用し医療面の情報や指導、直接ホームにきての指示もある。グループホーム連絡協議会でのブロック勉強会において「グリーフケア」についての研修も毎年受け、職員を含めた心理的負担についての支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え緊急セットを常備し、当院の看護師や併設施設の看護師がいつでも駆けつけることができる。緊急時は慌てるので、職員は学習の機会を重ね実践力を見につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ブラインド訓練やマニュアル訓練を通して消火、通報、搬送法などを消防署立会い指導の下で学び、防災に対する危機管理意識を身に付けている。自治会からも訓練に理解を頂いている。	法人内全体で年に2回消防署立会の下、深夜を重点的に昼夜を想定した避難訓練が実施されている。今年度にホーム裏の別住宅で火災があり直後に実体験を通して得た教訓を各職員にあげてもらい更に検討することによって災害対策に繋げている。	備蓄は完備されているが、内容が分かる一覧表がないので、消費期限等も記載された一覧表、及び入居者の情報が分かる緊急持出用ファイルの完備が望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴や性格、習慣等を考慮しながら本人の立場に立った分かり易い言葉かけを心がけている。馴れ合い的にならないよう、普段から職員相互で確認をし合うようにしている。	さりげない声掛けや敬語を含めた親しみのある話し方に努め、言葉だけではなく、「寄り添う」姿勢で支援している。問題行動があった場合も本人の不利にならない様対応し人格の尊重に努めている。個人ファイル等はスタッフルームにて適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	具体的に表現ができない方もおられるので、こちらが一方向的に決め付けず本人のペースで、時には選択肢を示したり、環境を変えたり、時間をかけて向き合うよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はあるが、基本的に入居者のペースに合わせて過ごして頂いている。しかし時には職員の体制上の都合で予定を変更させて頂くこともあり、入居者には事情を伝えお願いする事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床とともに洗顔・整髪の支援をし、気候に合わせて本人に尋ねながら服を選んでもらう。訪問理美容を利用したり行きつけの美容院へ家族と行かれたり、化粧を欠かさない方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の要望を聞いて献立に活かしたり旬の食材を取り入れて季節感も味わってもらおう。村上医院で栄養士が立てた献立を参考にすることもある。配膳や下膳も入居者と共同で行なっている。	2週間ずつの献立作成時には入居者の要望も取り入れながら栄養を考えた食事を提供している。急な要望があり数日中に「焼肉パーティー」をする等、入居者が大変喜ばれ楽しむ食事の支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え量の加減を調整したり、器の大きさや形状を変えるなどして個人に合ったものを摂り易いように考えている。摂取量は毎食チェックし、排泄状況と合わせて体調管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、できるだけ自力を促し最後に不十分なところを声かけや介助をしている。訪問歯科を利用されている方は口腔指導を受けており、歯科衛生士との連携も図っている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見ながら声かけを行ったり、顔の表情や言動からサインを読み取り、早めの誘導に心がけている。日中はトイレ使用を勧め、入居者の状態によって2人介助で対応し、習慣化につなげている。	日中はトイレに座ってもらう取組みをし、介助が必要な方にも自立排泄を促すような対応をしている。排泄チェック表によりパターンを把握し、自立へ向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を使った献立作りや水分の摂取量の把握、軽運動等を行うなど、できるだけ薬に頼らず自然排便を促すよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	最低でも週2回の入浴を実施しており、個人のその日の体調や気分に合わせて時間や日にちを変更したりして柔軟に対応している。入禁の方は清拭の他、足浴、手浴も取り入れながら対応している。	基本的にある程度の曜日等は予定しているが突然の入浴希望にも可能な限り対応する姿勢がとられている。介助時の異性への配慮も日にち等を変更し対処している。入浴剤や柚子の季節湯等で入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状況や当日の体調、体面などを考慮しながら、必要に応じて自室での休息を促している。日中の活動を通して夜間の安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬紙を個人記録や服薬管理表にとじ、処方日には量、種類、効能、副作用を職員2名で確認をしている。服薬介助の際は職員2名と本人にも確認してもらい誤薬の防止に努めている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、嗜好などを本人や家族から聞き取り、日々の生活の中で個人が負担にならない範囲で楽しみながら役割を担えるよう、職員がさり気なく介入している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせたドライブや天候が良い日は散歩に出かけている。なるべく希望に沿う形で対応を心がけているが、実施できない時は、日を改めて、家族に協力して頂いている。	日常的には近所へ買物に車や徒歩で行くこともあり、時には家族の協力もありお弁当を持参してのドライブ等もある。急な外出要望には近辺であれば可能な限り対応している。気分転換のため暖かい日には外出のみならずバルコニーでの日向ぼっこ等、楽しみ方も支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時に金銭の自己管理が出来る方はある程度本人に任せているが、できない方には職員がお金をお預かりし、本人に付き添い一緒に買い物を楽しんで頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙など、自力で書けない場合は職員が尋ねながら代筆をする。電話は職員が準備すれば自由に通話出来る様にしている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節を感じられる装飾を入居者と一緒に作ったり、入り口には入居者が毎月作られる俳句を掲示している。照明は天候に合わせて調節し、室温は温度計や入居者に尋ねながら調節している。	体験学習の学生、保育園児との交流時の写真など飾られ、楽しい出来事の風景があちこちにちりばめられている。3階の共用空間には天窓もあり自然の光の暖かさや、窓から見える1階からの大きく伸びた木が四季を感じさせ居心地よい工夫がされている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーターホールやベランダにベンチを設置し、いつでもひとりになれる空間を作っている。宿泊室にはソファやテレビ、マッサージチェアを配置し、面会時にも利用出来る様にしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用の家具や電化製品、仏壇、思い出の品など持参していただき、本人と家族とレイアウトを考えながら居心地の良い居室となるよう配慮している。	家具等、自由に持ち込みが可能であり、各居室ごとその人らしい居室になっている。造りつけ家具があるため更に部屋の空間が広く、壁だけでなくベッド等の家具が淡い色のため部屋全体が優しい明るい色合いである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの心身状態を把握した上で、フロアー、トイレ、各所の手すり、テーブルや椅子の位置など、自立面を損なうことなく、かつ安全を考慮した環境作りを心がけている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度の目標でもある地域に密着した取り組みにチャレンジしている。介護教室、保育所との交流、認知症サポーター養成講座で学校や地域に向き認知症の理解に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やイベントを通して地域の方々ともふれ合い、日常的にも受診時や散歩の時に馴染みの関係となり、地域の一員として、普段通りの挨拶を交わすことができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室や認知症サポーター講座を自分達で企画する事で、地域の方々と共に住みやすい町づくりを目指していくという、社会の担い手としての自覚を持つようになった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全職員が会議ごとに担当に分けて出席し、自分達が行っている支援や取り組みを報告することで、タイムリーに意見を頂くことができ、サービスの向上に活かせるようにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が中心となって行政との協力関係も築けている。その都度、職員に対しても情報の伝達は行なってもらっている。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の面会時終了まで施錠していない。入居者の事故防止目的に必要に応じてベッドサイドレールを使用しているが、家族には事前説明し同意の下で対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、職員のストレスを少しでも軽減できるように、互いに話し合う時間を作り、自分達のケアを振り返りながら意識付けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する対象者がいないためか、意識が乏しい。研修等を通して学ぶ機会を計画的に持たなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や主任が直接対応している。改定時の説明の際は、いつ家族が来訪されても説明が出来る様に、事前に全職員に内容の理解を徹底させている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では各委員から意見や提案を頂く事で、それを具現化したことや逆に実現できなかったこと等を、次回にまた報告するという会議の位置づけが機能している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の業務の中で出た現場の意見は、その都度管理者に上げており、状況に応じて備品購入や設備の補修に関してもタイムリーに対応してもらっている。		

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の機会を与え、知識と技術向上の場やチャンスを作り出してくれる。現場に立ち寄った際は、体調面や精神面にも目を向けて、いつも気を配って頂いている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、東部ブロック研修以外の外部研修にも積極的に参加の機会を与えてもらっている。参加した研修の内容は、全員が共有出来る様に閲覧や会議で伝達をしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に3回ほど開催されるブロック研修会では、各施設の職員間で学びたい事を出し合っ、グループワークや発表会の場も設けるなど、和気藹々とした中で交流もかねた良い勉強会になっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーや家族から情報を得つつ、本人との関わり合う時間を多く持つ。本人の不安や要望等を引き出しながら、安心感を感じてもらえるように支援をしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの在宅生活の様子や好きな事、習慣など本人に関する情報を集めて、それらを基に家族と話し合っ具体的サービスの方法を決めるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前までの生活リズムを極端に損なう事のないように、例えば通所系の利用者との交流や、行きつけの店へ出向くなど、家族や友人にも協力を得て、その関係性が継続出来るよう配慮している。		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対職員との関係だけでなく、入居者同士も互いに意識し合い協力し合えるように、全てを手助けするのではなく、一人ひとりの出来ることを尊重し、発揮出来る様に努めている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は本人の生活の様子や経過を必ず伝え、本人から要望がある時、また状態が変化した時など、その都度家族に報告し、状況を共に把握できる事での協力関係ができています。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、仲の良い近隣の方々、職場の元同僚、地域の演芸ボランティアの方々などが定期的に来訪され、職員ともすっかり顔馴染みとなっている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性や性格など、日々の生活の中で把握するように努め、生活空間の場所や環境を作り上げていこうと職員全員で取り組んでいる。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も次の受け入れ先が決まるまでフォローをしている。また退居後も機会があれば訪問したり、家族から近況を伺ったりして、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉や表情など、いろんな場面から推測をして得た情報と、家族の要望も含めてスタッフ間で話し合い共有し、本人にとって少しでも分かりやすく安心して過ごせる様に努めている。		

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人などに日頃の生活の様子を聞き取ったり、在宅サービス利用時の事業所やケアマネから情報を得るなどして、本人にとって一番良い方法を考え支援に繋がられる様に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全てを支援するのではなく、その日の本人の状態を職員間で把握した上で、今必要な介護を提供していけるよう心がけている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員から得た情報と、本人・家族の意見をふまえ、アセスメントを行い会議でプランの原案を作る。実践者研修を機に、今までマイナス面に目線が行きがちだったが、改めてICFの視点で取り組んでいるところである。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やサービス実施チェックに日々の様子やケアの実践状況を記録し、申し送りを通じて情報を共有する。個人記録には生活の様子や新たな一面などを写真を添付して残し、ケアプランに反映させている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望や相談があったときでも、必要であれば管理者や併設事業所の協力を得ながら、柔軟にニーズに応える事ができている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育所の園児達が来訪したり、10月には運動会にこちらから出向いたりとお互いに交流ができた。中学や高校生との職場体験等を通して、活発で楽しい思い出作りとなっている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が母体の医院に定期受診しており、また病状に応じて紹介状を持って速やかに他の医療機関を受診する事が出来ている。		

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	村上医院との申し送りノートで小まめに情報伝達を行い、必要に応じて指示を仰いでいるが、介護職員としての観察力や報告の仕方など、基本的なことが確実にできるように日々努力している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと情報を交換しながら病状の確認や退院にむけた受入れ調整を行っている。また家族が退院後の心配をされないよう、よく話を伺いながら対応に心がけている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態変化や悪化した場合は、家族、院長、師長、管理者、主任と今後の方針について、病状や家族の意向によっては「看取りの指針」に基づき協議を話し合いを行なうようにしている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の医院より勉強会や個別に指導を受け、事故発生時に備えているが、実践力といわれれば不安はあるので、今後も引き続き学習の機会と学ぶ姿勢は持つようにしている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練で得た課題を毎回修正、確認をしながら、問題意識を持って実践的に身をもって学習している。徐々にはあるが地域住民の協力・理解も得られるようになってきた。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を大切にしてい て分かりやすい丁寧な 声かけや対応に心がけ ており、併設事業と取 り組んでいる「おもて なしプロジェクト」の 接遇チームの目標にも 掲げて、全事業所一体 となって取り組んでい る。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望 を表したり、自己決定できるように 働きかけている	具体的な表現が難しい 方もいらっしゃるの で、できるだけその方 の思いを読み取るよう に心がけ、解かり易い 表現、表示の仕方など を日々考えながら支援 している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペースを 大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援してい る	何をするにも主役は 誰？優先すべき事は 何？を念頭に置き、個 人のペースに合わせて 必要な事を提供するよ うにしている。しかし 職員が主体的に動いて しまっていることも少 なからずある。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃ れができるように支援している	起床の際、洗面台で鏡 を見ながら自身で身だ しなみを整えてもら い、困難な方は声かけ で促したり、介助を 行っている。その日の 気候に合わせ意向や好 みを尊重しながら衣類 も選んで頂いている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、 一人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている	個人の出来る範囲で調 理にも参加して頂き、 家庭的な料理の提供を 心がけている。仲の良 い者同士、または他者 と同席は苦手な方など 個人に合った環境作り にも配慮している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量 が一日を通じて確保できるよう、一 人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている	一般状態、排泄状況の 把握と、食事・飲水の 摂取量チェックを毎日 行ないながら、本人が 摂取しやすいように好 みや量や形態、代替食 なども検討しながら工 夫して提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じな いよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態 や本人の力に応じた口腔ケアをして いる	必要に応じてセッティ ングを行い、見守りな がら本人に行なって もらっている。不十分 な点があれば声かけ して介助している。言 葉の理解が難しい方 はジェスチャーで伝 えて促すこともある。
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減ら し、一人ひとりの力や排泄のパター ン、習慣を活かして、トイレでの排 泄や排泄の自立に向けた支援を行っ ている	排泄の間隔が空いて いる時は、さりげなく 声をかけ誘導し、失 敗を未然に防ぐよう 気をつけている。サ ブパットが汚染して いたとしても習慣を 活かした自力排泄を 促している。

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活チェック表を基に下剤服用の方は、主治医の指示を仰ぎながら調整している。週3回の寒天の提供、テレビ体操や軽運動、腹部マッサージなど施行しながらスムーズな排便を目指している。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回のペースで提供しているが、その日の体調や気分で時間帯が合わない時は、本人の意向を聞きながら時間をずらしたり、日程を調整して対応している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の眠りの習慣に合わせて対応している。ベッドの位置、枕の位置・大きさ・高さ、布団にも違いがある。居室の環境、照明、テレビのスイッチのon, offのタイミングも配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、個人ファイルや内服一覧にまとめており、全職員がどんな時でも目を通せるようにしている。処方日には本人の状況、症状などを主治医と確認を取るなど特に慎重に対応している。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報を基に、好物を献立に取り入れたり、家事のお手伝いをお願いしたり、友人と外出したり、いろんな場面でそれぞれが役割・楽しみを持って生活できるよう支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の職員での対応が難しいときは、家族や知人に協力してもらいながら、なるべく希望に沿えるよう努めている。日常的にも受診の帰りに近隣を散歩するなど気分転換できるよう配慮している。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方は少ないが、家族の協力を得て本人の負担にならない額を管理されている方もおり、間違いがないように職員と家族が協力して本人の安心感につなげている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が本人用に電話を用意されている方は友人や家族と自由に電話で話されている。本人から電話や手紙の要望があった場合やこちらが必要と判断した場合は、家族に取次いだり、代筆をしている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に移動の妨げになるような物は置かないようにし、室温は個人の様子を観て小まめに調整している。臭いも換気に気をつけ消臭剤も活用している。花や壁面で季節感を工夫している。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3階フロアだけでなく、併設のデイや2階のフロアも活用出来る様に、職員がタイミングを見てきっかけを作り、さりげなく声かけて誘ってみたりして気分転換につながるよう配慮している。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭での愛用品や家具、思い出の写真等を居室に持ち込んで頂き、一人ひとりに合った居心地の良さを工夫している。職員が作った誕生カードも飾って頂く等、家庭的な雰囲気等を大事にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実践者研修に参加した職員がICFの視点を学び、施設で改めて考える良い機会となった。表示一つにしても個人の潜在能力を活かした環境作りに全員で取り組んでいる。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない